

## ◆事業のポイント

都市のコモディティ化、個人ニーズの多様化が見られるなか、来街者の満足・喜びを満たす街のイベント・賑わいを実現すべく、「イベントの創り手と来街者を繋ぎ、停滞を解決する仕組み」をスマートシステム化することで、サステナブルな賑わい・満足の循環を実現する。

## ■ 対象区域の概要

### ■ 対象区域の概要

- 名称：東京都渋谷区
- 面積：15.11 km<sup>2</sup>
- 人口：230,609人(R6)

### 位置図



## ■ 都市の課題

### ■ 「回遊性の低さ」

渋谷エリアを訪問する来街者が目的を消化すると帰る人が増えており、エリア内を回遊することが減ることでマチのコモディティ化が進んでいることが課題

⇒「区民はもとより多くの来街者が集まる都市の特性を活かし、渋谷民が交流し街の魅力をさらに高めるような取組みを如何に果たしていくか」という渋谷区特有の都市課題

### ■ 「発信のためのリソース不足」

渋谷エリアの地価上昇や人手不足に伴い、出張イベント等、新たなコンテンツを発信する事業社・人々が金銭や時間といったリソースの不安によりチャレンジをしにくくなる環境になりつつある。

## ■ 解決方法

### イベントの創り手と来街者を繋ぐ仕組みのスマートシステム化

・賑わいイベント等が拡大しない原因に対する効果的なインセンティブ・情報/施策の見極め、イベント実施リスク・稼働の解決などを洗い出しながらPF化していく。

・具体的には下記2つの取組を実践する。

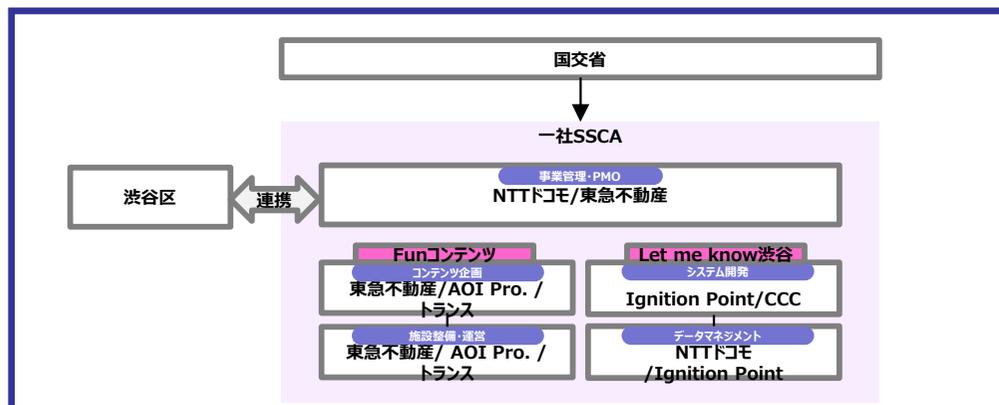
#### ★Let Me Know 渋谷

－イベントの創り手と来街者を繋ぐツールの構築

#### ★渋谷 POPUPs

－賑わいを偶発的に発生させるコンテンツ提供

## ■ 運営体制



## ■ KPI (目標)

来街者の行動変容を促して回遊性の向上を図るべく、滞在時間の向上並びに、渋谷への来訪数の向上に向け、以下のKPIを設定（達成状況の結果は後述のとおり）

- ・検証イベント実行回数：1回
- ・イベント満足度：3.5（5段階アンケート）
- ・参画事業者数：15社

## ■ 本実行計画の概要

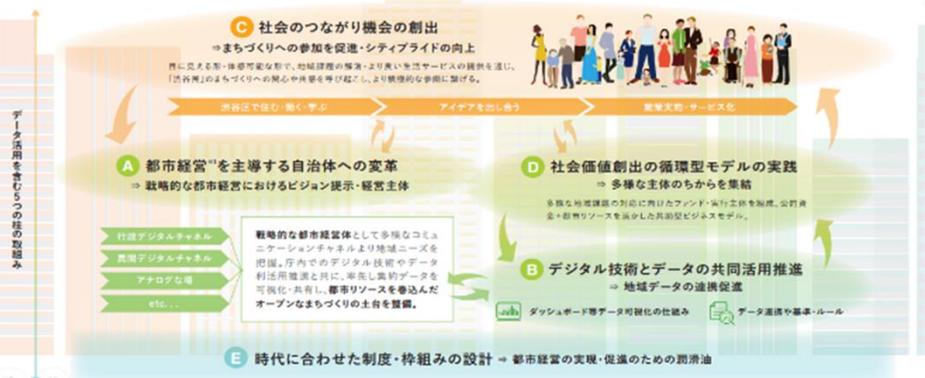
「ちがいをちからに変える街。渋谷区」という未来像実現に向け、デジタル技術やデータの活用を通じて、渋谷区に関わる人々や組織の共創関係構築をエンパワーメントし、産官学民によるオープンイノベーションで都市課題を解決していく。

## 取組概要

多様な組織・分野・エリア・データ間の連携による渋谷一体での都市のスマート化の推進するものであり、様々な領域別サービスの実証を見込むほか、最終的に都市内での投資モデル構築を通じた社会実装を実現する。

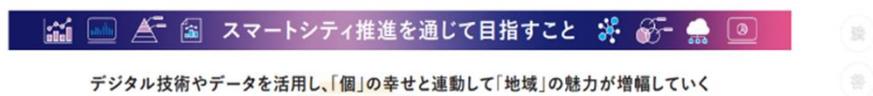
### スマートシティ推進における5つの取組み

渋谷区が目指す未来像の実現に向けて、5つの取組みを推進し、渋谷区の特有多様性の力を高めていきます。



## 将来像

都市における多様なアセットやデータを収集・分析し、様々なサービスの組成・実装を通じて、「個」の幸せと連動して「地域」の魅力が増幅していく Well Beingとシティプライドの溢れる街を目指す。



### Well Beingとシティプライドの溢れる街へ

渋谷での生活がいつも+αの価値に  
いつでも安心快適に

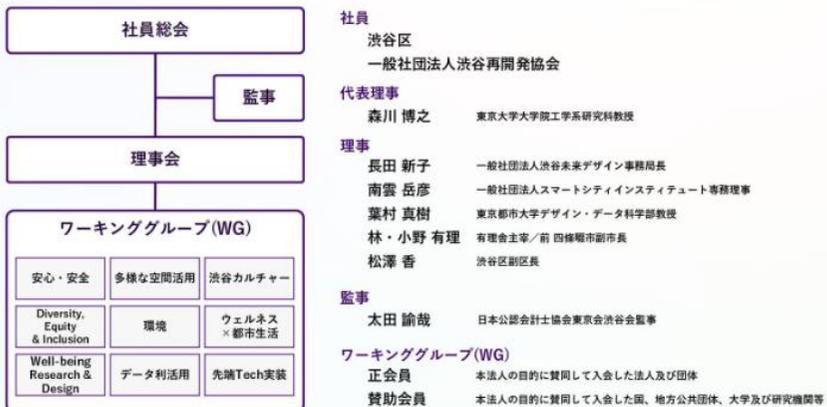
気軽に仲間とつながれて力になれる  
気軽にアイデアを共有し、各種活動に参加することで、あったらいい!を一緒に実現する。同時に、「美しい」街にも自然と出会え、新しいチャレンジへ挑戦する可能性が絶えず生まれる。

楽しさを共につくり体感できる

「私」目標で  
いつでも安心快適に  
区民、事業者、NPO、学校や行政との連携強化及びデジタル技術の活用を通じ、デジタルとリアル両面の両立から一人ひとりの安心を支える。

「渋谷民」について  
渋谷区は多様な人々の力や、それぞれの得意分野を最大限に活用し、多様な価値を生み出す。区民の多様性に魅力を感じる人も、育むだけでなく、周囲で働く人、学ぶ人など、多様な関係者、自治体職員など、共に街を創る。多様な人々の活躍を促す。

## 体制



### Well-being Research & Design wg

人や街の現状を捉え、渋谷におけるWell-beingの指標デザインや、各取組がWell-beingにどのように寄与するのサーチ、デザインをしていく

<b>安心・安全 WG</b> 渋谷民を変える密な連携により、平時から「誰もが安心感を持つ街」をつくる	<b>多様な空間活用 WG</b> リアルとバーチャル空間を活用し、多様な街の過ごし方を演出・創出する	<b>渋谷カルチャー WG</b> 参加・交流できる遊びや文化を創出し、愛着・ファンを広げていく
<b>Diversity, Equity &amp; Inclusion DE&amp;I WG</b> 「ちがいを」捉え、一人でも多くの人が参加・活動できる取組や仕掛けを創出する	<b>ウェルネス×都市生活 WG</b> 都市生活における健康な行動・ライフスタイルを提案する	<b>環境WG</b> 循環型社会に対応した持続可能なまちへの転換を促進する
<b>データ活用 WG</b> つながる価値を創出する手段として、データを活用するために、データ収集・利活用の仕組みを検討し、データ連携基盤(都市OS)の構築につなげる		
<b>先端Tech実装 WG</b> これからの生活に必要な先端技術を捉え、街に実装していくための方針整備や取組を創出する		

回遊性の向上に向けた街のPopupイベントにおける「リアルとデジタル双方の施策展開」、またその結果の定量デジタル捕捉・効果精査について、令和5年以降にプラットフォーム化、早期社会実装を実現するための運用・ビジネススキームのPoC検証を行った。今回の渋谷POPUPSのような遊休地活用のイベント開催が回遊性向上に一定有効であること共に、データ連携の促進による運営の効率化およびリスクの最小化の余地がある点を浮き彫りにする成果と知見を得た

## ■ 実証実験の内容

### ■ イベント及び回遊促進施策による行動変容

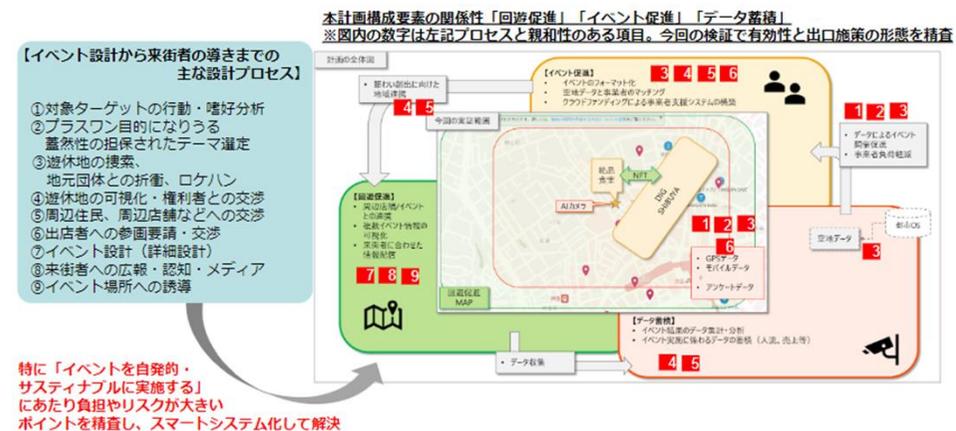
携帯キャリアが保有する渋谷の来街者データを分析した結果から、渋谷区民および渋谷で働く人・学ぶ人達、並びに来街者の多くが、関心があると推察されるテーマのイベントを遊休地で開催することに加えて、Mapアプリや他イベント連携を実施することにより、来街者に対して当初街に訪れた目的以外の行動変容を促進

### ■ イベントの汎用化について

回遊促進を目的としたイベントを継続的かつ汎用的に、開催していくために必要となる要素や課題を把握

### ■ 回遊促進プラットフォームの整備

Let Me Knowプラットフォームを拡張していくにあたって、コストフリーで利用が可能なMapアプリ（Google my map）で試験的に、イベント情報・コンテンツ情報の可視化を実施。開発が必要な機能や継続的な情報配信に向けた課題の把握



## ■ 実証実験で得られた成果・知見

データ分析によるテーマ選定	・通信キャリアの持つ属性嗜好等データについて、単なる商品マーケティングに使われがちなデータが、まちづくり・賑わい創りの観点でも活用でき、有効性がある事を確認
先端テックによる回遊性向上の可視化	テックも交えた複数のデータ収集方法（AIカメラ・GPSデータによる人流データ、アンケート）を用いることで、設置調整やコストによらず、結果として質・量の両面からデータ収集を実現する手法を確認。
情報発信ツール	無償かつ高速で構築可能であったgooglemymap機能のみ前倒して具現化し、来場者の4割が活用したという実績を確認。他方、見映えの改善ポイントやその他機能と合わせてワンストップ提供する場合の設計や導線の在り方などは継続課題
ビジネスモデル	事業者サイドからは「人的稼働の高負荷」や「変化やリスクの予測しづらいため、参加しづらい」という声が散見。特に負荷の高い、遊休地の検索・ロケハン、遊休地可視化と権利者交渉、出店者参画要請などにはスマート化の余地は継続課題
法令・ルール整備など	利用許諾の手軽さや、交渉面の簡便さから駐車場をポップアップ実施の場所としての有効性を確認。他方、自由自在に賑わいを創り出すことを目指すうえでは、駐車場以外で柔軟に活用できる場所の更なる多角化、「利用許諾申請の重さ」の解決は継続課題

- 令和5年度実証にて受容性の確認ができた機能は実装に向けた更なる磨きこみを図る。
- 空地活用のDB化など主要部分は令和6年度後半～令和7年度前半での段階的実装を目指す
- イベント出店者の売上最低保証などを実現するビジネススキームは令和6年度後半以降でビジネスモデル検証を予定

## ■ 実証実験で得られた課題

データ分析によるテーマ選定	イベント展開に必要な来街者データ（嗜好・人流・属性など）の提供について、形態や提供場所などが整理すべき課題
先端テックによる回遊性向上の可視化	AIカメラ・GPSデータによる人流データなどの広域渋谷にわたるデータ取得方法・費用面を考慮した効果的な配置、提供
情報発信ツール	イベントや、事業者に関する情報の提供について、PFにおける見映えの改善ポイントやその他機能と合わせてワンストップ提供する場合の設計や導線の在り方などは継続課題
ビジネスモデル	特に負荷の高い、遊休地の検索・ロケハン、遊休地可視化と権利者交渉、出店者参画要請などにはスマートシステム化（プラットフォームの機能としての実装）の検討
法令・ルール整備など	利用許諾申請に関して柔軟に対応できる私有地空地のDB化手法に関する整理・検討、ならびに駐車場以外で柔軟に活用できる場所の更なる多角化、「利用許諾申請の重さ」の解決は継続課題



## ■ 今後の取組：スケジュール

### <短期（R6年度）>

- ・ワンストップ提供する機能の提供形態検討・具現化（場所と事業者のマッチング・利用手続き・来街者データ提供、クラウドファンディングなど）
- ※区側で整備するデータベースも活用

### <長期（R7年度～）>

- ・ワンストップPF化の実現
- ・PFの見栄え、使い勝手磨き込み
- ・PF利用者数の向上キャンペーン施策の展開

